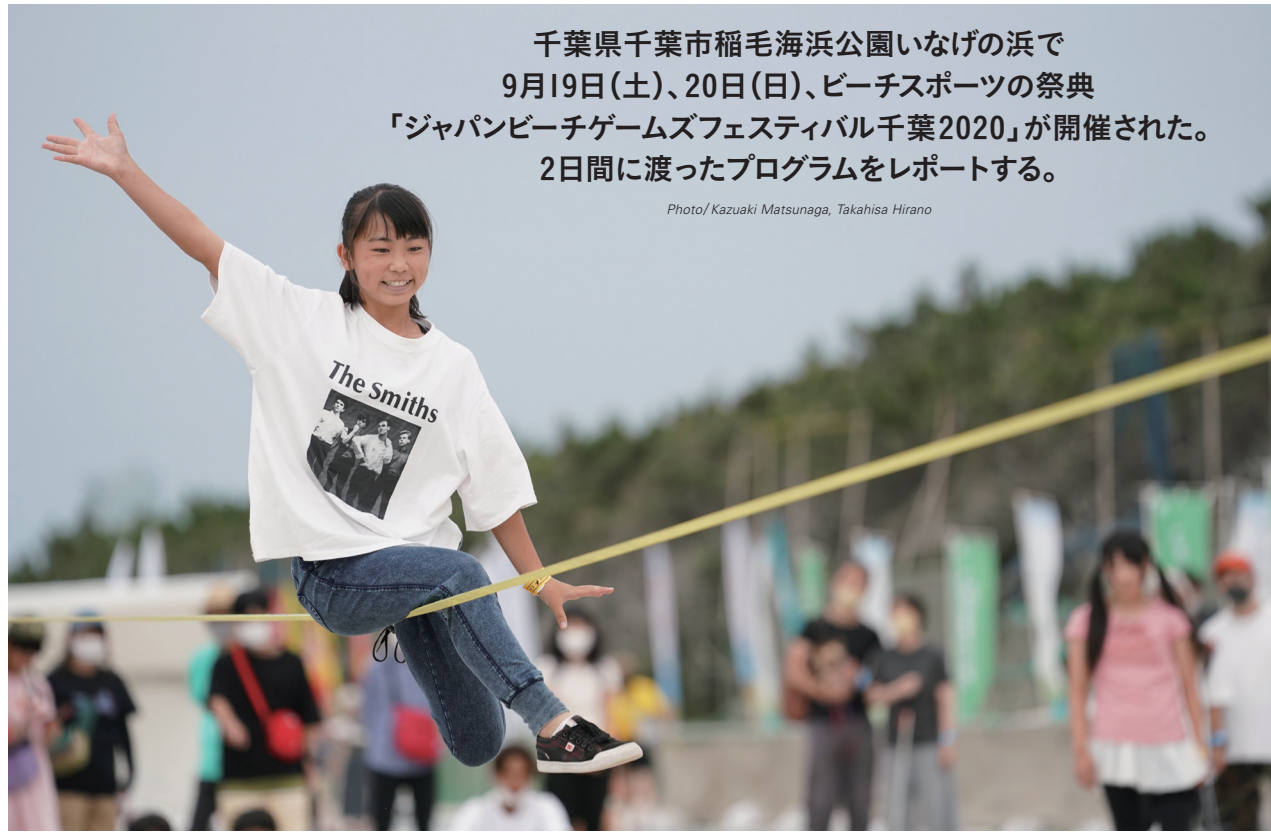


JAPAN BEACH GAMES FESTIVAL CHIBA 2020

千葉県千葉市稲毛海浜公園いなげの浜で
9月19日(土)、20日(日)、ビーチスポーツの祭典
「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉2020」が開催された。
2日間に渡ったプログラムをレポートする。

Photo/Kazuaki Matsunaga, Takahisa Hirano



ジュニア、シニア、マスタークラスの公式戦が開催されたスラックライン。華麗なる技の数々が観客を惹きつけた

千葉初のビーチスポーツの祭典！ 笑顔と元気で賑わいを見せた いなげの浜。

2017年から東京都港区区おだいはビーチで始まった「ジャパンビーチゲームズフェスティバル」。3回目となる今回はその舞台を千葉市に移し、昨年10月にリニューアルしたいいなげの浜で開催された。コンセプトは、このイベントを契機に千葉市が誇る都市型ビーチを新たなプラットフォームとして海辺の文化を活性化させること。決して「密」にはならないビーチ本来の楽しさ、海辺が市民の憩いの場となる活用方法の提案だった。主催者側の信念のもと、千葉初となったビーチスポーツの祭典「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉2020」が行われた。

ビーチスポーツの代表格として盛り上がりを見せたビーチテニス。観客が参加できる体験が人気だったフライングディスク。迫力あるビーチアルティメットのデモンストレーションも行った。日本のトップ選手が集結し、観客動員数NO.1だったビーチバレーボール。子どもたちのはしゃぐ姿が印象的だったビーチフラッグ

「大会」の存在意義を改めて痛感したという声が多く聞かれた。2日間で合計3600人が来場し、多くの人々にビーチスポーツの賑わいを発信した。



各競技の代表者が集まり、盛大に行われた開会式

ツボを押さえて読むほどハマる！

はだし文化新聞

ふむふむ

No.12 2020 12/20

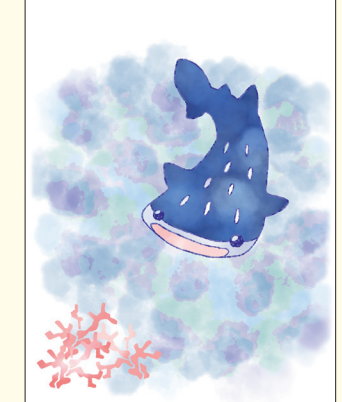
2020年12月20日発行 通巻第12号
発行/NPO法人日本ビーチ文化振興協会
編集人/遊佐雅美
〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 リバーサイド茅場町3階
電話 03-3552-1171
編集スタッフ/吉田亜衣 (BeachvolleyballStyle)
デザイン/島内泰弘デザイン室

INDEX

- 1面 JAPAN BEACH GAMES FESTIVAL CHIBA 2020
千葉初のビーチスポーツの祭典！
笑顔と元気で賑わいを見せたいなげの浜
海辺を守ろう！創ろう！育てよう！
ブルービーチプロジェクト、発進！
- 2-3面 TALK SHOW 熊谷俊人×朝日健太郎
2人が見出す新たなビーチの活用方法
連載:朝日健太郎が自利自利する砂ソムリエ
連載:New Sports Power
連載:おらが街のビーチ自衛
それぞれの想いを風に乗せて。
みちのく潮風トレイルメッセージアート展を開催
連載:ビーチゲームズを日本へ！
連載:ビーチゲームズを日本へ！
編集後記:だしの足跡
- 4面

会場&WEB投票にて 各賞決定

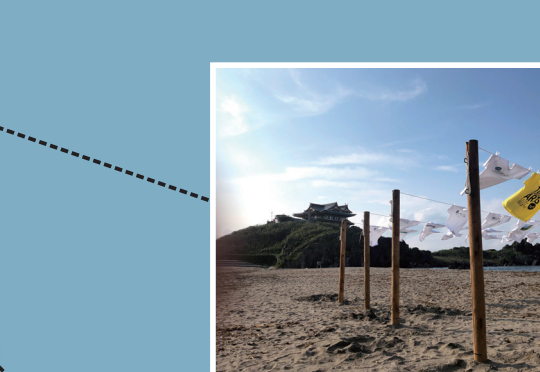
今年は、公式ホームページにてプロのクリエイターによる作品から一般公募の応募作品を展示。一般作品を対象に、WEB投票を行った。11月初旬にはグランプリから各審査員が選んだ入賞作品を発表した。



メッセージアート・グランプリ
「ホエーシャーク」 水戸部 (東京都江戸川区)



みちのく潮風トレイル メッセージアート展 開催地MAP



八戸市燕島海水浴場で舞うTシャツ



燕島海水浴場はみちのく潮風トレイルの拠点となっている



北緯40度東端の地である昔代村の昔代浜



気仙沼市小田の浜の会場。ビーチテニス体験も同時に開催された

みちのく潮風トレイル メッセージアート展 を開催

それぞれの想いを風に乗せて
「海・海辺」復興の想いをテーマとしたイラストや写真をTシャツに鮮やかにプリントし、そのメッセージがひらひらと潮風に舞うように例年展覧してきた「メッセージアート展」。今年は、東日本大震災から復興を遂げた4県28市町村をつなぐ「みちのく潮風トレイル」とコラボレーションして開催された。

青森県八戸市燕島海水浴場、岩手県昔代村昔代浜、宮城県気仙沼市小田の浜の3つの地域。あじこく雨天のため一部開催中止となったが、森、里、川、海つながりから生まれた新しい道にそれぞれの想いが詰まったアートTシャツが舞った。

ROOTS OF BEACH SPORTS GEAR

第3回
文/小嶋久

【ビーチアルティメット】

パイ皿からプリキ、そしてプラスチックになった
直径27.4cmのディスク



子ども頃の遊びとしてなじみ深い円盤型のフライングディスク。80年も昔に誕生したディスクは競技の面白さを追求していくうちに今の形状となった。今回はビーチアルティメットのギアであるディスクのルーツを探ってみる。

80年ほど前のアメリカで、ブリキのパイ皿を投げ遊んでいたのが、フライングディスクのルーツです。その後、プリキはプラスチックに代わり、形状が改良され、現在のようなディスクになりました。その直径27.4cm、厚さ3.2mm、重さ175.8gのディスクをパスし、エンドゾーンまで運ぶのがアルティメットです。ですから「究極の名の通り、プレーにもアルティメットな技術が求められます。ディスクの投げ方には、一般的な「バックハンドスロー」「フォアハンドスロー」「アップサイドスロー」、ディスクを立てて頭上から投げる「アップサイドダウンスロー」があります。またディスクを左右に傾けてカーブ、シュートを投げ分けることが可能。ディスクをホップさせキックしやすくなる「エアバウンス」と呼ぶアルティメット特有の投げ方もあります」と話すのは日本フライングディスク協会の梅原貴正事務局長です。

新型コロナウイルスが全世界に広がり、目に見えぬ敵との闘いに新しい生活様式を余儀なくされた。医療従事者の皆様には、多大なる敬意と感謝の念を申し上げます。その状況下、弊会では幸いなことに3事業の活動を実施することができた。本来は自由に行き来できるストレスフリーの環境こそビーチであるが、感染拡大防止対策による規制を、入念に突き詰め、開催。いずれの会場も老若男女の笑い声が沸いた。マスクの下にある口元が笑みで溢れた。また自然に救われた。心から感謝いたします。

夢から感動へハートテクノロジー 東洋建設

配布されたオリジナルのビーチクリーンエコバッグを手に、「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉2020」でビーチクリーンをする来場者

BLUE BEACH PROJECT

海辺を守ろう！創ろう！育てよう！ ブルービーチプロジェクト、発進！



配布されたオリジナルのビーチクリーンエコバッグを手に、「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉2020」でビーチクリーンをする来場者

日本ビーチ文化振興協会とは、2008年から海辺と共存することで生まれる、新しい空間の創出を目的に、ビーチスポーツの普及、水辺安全教室の開催による青少年育成、だしによる健康増進を軸に海辺を守ろう！運動をスタートさせ、活動に取り組んできた。年々深刻になるのは、海辺の

【3つのアクション】

- 1 守ろう イベントを通して参加者と「ビーチクリーン・ゴミの分別」を実施する。泳げる海を目指し、海洋環境を豊かにするため「竹ひび設置」の推進を行う。
- 2 創ろう 山・陸・海に関わる団体との横のつながりによるネットワーク構築を図る。新たな視点から双方の活性化を創る。
- 3 育てよう 海辺の自然環境の保全・再生、スポーツなどによる海辺の利用などについて踏まえながら、現代の暮らしにかうる形で海辺を活用した地域を育てる。



最終回
ビーチゲームズ日本
招致への第一歩

1・2キロの海岸線が広がるいなげの浜に各団体が集まって開催された「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉2020」。コロナ禍という状況ではあったが、ビーチの利点を活かして、前回のフェスティバルよりも公式戦を実施した団体が増えたことは大きな意義があった。タイトルが、かかった試合は、真闘争の迫力あるプレーが感動を呼んだ。「観るスポーツ」としてのビーチスポーツの魅力が発揮された。「観る」が促進される。スポーツの3要素が促進される。「ジャパンビーチゲームズ」の実現に近づいてきたと言える。また「観る」だけではなく、その体験会を組み合わせ「やる・観る」両方の要素を取り入れたことは、家族連れで遊べるビーチ空間となり、とくに地元の方々にとってはビーチの新しい活用という点で大きな効果が生まれた。今回のイベントは、千葉市の尽力があり、大きな予算をかけたことで成り立った。今後の課題として、各競技の選手がエントリー費を払って参加する大会を開催し、開催都市や会場周辺にも経済のメリットが生まれるように発展していかななくてはならない。ここで得た教訓を来年、再来年につなげていき、「ジャパンビーチゲームズ」を近い将来に実現させていきたい。「ジャパンビーチゲームズ」フェスティバル千葉2020は、その第一歩となる大きな期待を抱かせた価値あるイベントとなった。



最終回
招致への第一歩
Fumio Morooka
日本ビーチ文化振興協会理事
上智大学名誉教授、GAISF元理事

New Sports Power ⑩
(ビーチで生まれた新競技)

文/小崎仁久

テックボール TEQBALL

サッカーと卓球を掛け合わせた身体接触がないスポーツ



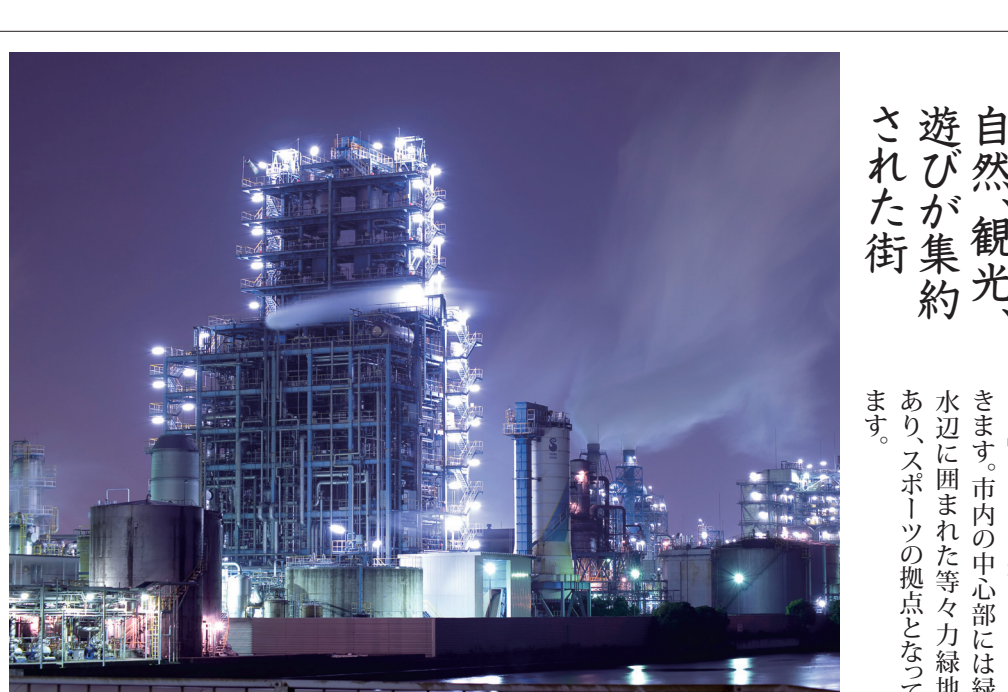
上：テックボール・ワールドカップ出場経験がある早稲昭範選手(右)。トレーニングとしても遊びとしても楽しめるという下：湾曲しているテックテーブルを使ってボールをコントロールするのが魅力



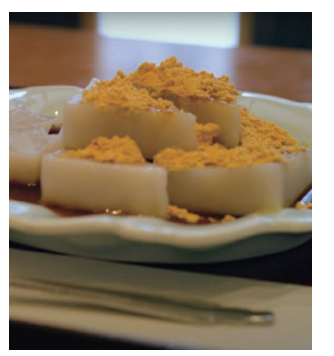
湾曲しているテックテーブルを使ってボールをコントロールするのが魅力

テックボールは最も若く、最も急成長しているスポーツだ。このサッカーと卓球を掛け合わせた新競技は2012年、サッカー選手、IT科学者、ビジネスマンの3人によつてハンガリーで産み落とされた。まだ10歳にも満たないが、すでに世界53カ国に公式連盟ができ、国際競技連盟連合にも加盟。2021年のアジアビーチゲームズでは正式競技に採用されている。サッカーの技を使い、3タツチ以内でボールを相手コートに返す単純なゲームだが、このスポーツの妙はテックテーブルと呼ばれる競技台が大きい。湾曲しているところ、弾んだボールがプレイヤーに向かってくるため、プ

決まりました。並々ならぬ思いがあったので開催に至ることができてうれしいです。来場された皆さんも元気になる機会になったと思います。リニューアルされたいなげの浜の今後の展開は？
熊谷 千葉市にあるいなげの浜、検見川の浜、幕張の浜は日本でも一番長い人工海浜です。もともと千葉市は海辺に長い歴史があり賑わってきた街。その賑わいを引き継ぎ、リニューアル後もいろいろな方々に楽しんでもらいたいという思いがあります。今後は都市型ビーチの価値、楽しみ方を定着させて、検見川の浜や幕張の浜まで広めていきたい。そういう意味では、今回のイベントは非常に重要な役割を担っています。
朝日 イベントのもう一つの目的として10年前から始まっているビーチスポーツの総合国際大会「アジアビーチゲームズ」を日本に招致し、それを「ワールドビーチゲームズ」まで飛躍させたいという狙いもあります。



イルミネーションのように輝く工場地帯の夜景



川崎大師路菓 久寿餅

観客を惹きつけたスラックライン
4 競技の中でひと際、観客を魅了していたのが、スラックライン。ジュニアからシニア、マスタークラスの選手がラインの上でアクロバティックな演技を披露した。「1カ月ぶりの公式戦となったが、各選手ともに技術が上がリ、自粛期間中でも練習を重ねていたんだと感じた」と日本スラックライン連盟会長の小倉 勇氏は語る。体験用のスラックラインも親子で参加できるとあって、賑わいを見せた。「我々だけで大会

女子ジュニアクラスで優勝した岡澤悠選手
を開催しても、これまで人は集まらない。この大会では知らない競技を見ることもできる。相互作用のある価値あるイベントだと思う」と小倉氏は収穫を語った。
ビーチで可憐な演技を見せたのが、ジュニアからシニア優勝を果たした岡澤悠選手12歳)だ。スラックパレエをやっていた経験を活かした柔軟性が武器。人々の視線を釘付けにした。「順位にこだわらなければ、私の最大限の演技を見せたいと思っていました。下がビーチなのでネットもありませんが、難しい技に挑戦できました」と大会を振り返った。

チアリーダーの育成を掲げ活動するチアスピリット
いなげの浜をパワフルなパフォーマンスで盛り上げたのは、オーブングラクトで演技を披露したチアスピリットだ。代表の島田若枝子氏は「いま広い世代でチアリーディングをする人が増えて

いるが、その一方で教える人が少ないのが課題だった。技術やチアの精神をしっかり伝えられる人材を育てるため、2017年に一般社団法人を設立したと指導者の人材育成に尽力している。今後の構想はチアリーダーを職業にするような環境を作り上げる。子どもたちが将来プロのチアリーダーになりたいと思えるような世界を視野に、ワールド関係なく人々に元気を発信していく。

ななと佐藤選手は、2年生と違うと思うように砂の上ではボールが動かないの空で飛ばさばくのが面白さだと思っ。子どもたちが笑顔を見てもうとビーチサッカーのイベントを増やしてついでに感じた」とビーチサッカーの魅力を語った。

自然、観光、遊びが集約された街
防炎面でも安全な人工海浜の東扇島公園

神奈川県の自慢のビーチ
神奈川県川崎市は、都会のベッドタウンとしての利便性だけではなく、自然の宝庫や観光スポットが豊富な街です。臨海部では個性あふれる光り輝く工場夜景ツアーや産業観光も人気。また北西部にある生田緑地では、野鳥や多様な植物を楽しめます。園内では川崎とゆかりのある岡本太郎美術館、「藤子・F・不二雄ミュージアム」で時間を過ごすことができます。市内の中心部には緑と水辺に囲まれた等々力緑地があり、スポーツの拠点となっています。

川崎大師路菓 久寿餅
川崎のスイーツといえば、川崎大師路菓の久寿餅。お店によって風味や食感も異なるのが特徴です。また、工業地帯として知られる川崎には、スタミナ満点のB級グルメが目白押し。溶き卵が詰まったコクたつぷり、二ニュータンメンは、川崎のソウルフードとして人気急上昇中。川崎区浜町のセメント通り周辺には焼肉屋が点在し、コリアタウンとして有名です。

地域DATA
人口 1,539,522人(2020年9月時点)
代表ビーチ 東扇島公園
観光名所 生田緑地、川崎大師、川崎工場夜景
名産 小麦、梨
宿泊施設 約30施設

TALK SHOW

熊谷俊人 × 朝日健太郎

(千葉市長) (ジャパンビーチゲームズフェスティバル特別ゲスト)

2人が見出す 新たなビーチの活用法

ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉2020の開会式でビーチの活用法について語った熊谷市長と朝日氏。2人が語った未来の都市型ビーチとは？

Photo/Kazuki Matsunaga, Takahisa Hirano

ハードな競技からレクリエーションまであるのが魅力(朝日)
今回、千葉市いなげの浜で開催された経緯をお聞かせください。
朝日 「ジャパンビーチゲームズ」というのは、簡単に言えばビーチスポーツのオリンピックのような祭典です。ビーチやマリリン、ハイブリッドなどの複数競技を一度に同じビーチで開催することを目指しているんです。一度に集うフェスティバルとしてお台場を舞台にスタートしましたが、数年前に千葉市さんから「いなげの浜でやりましょう」とお声をかけたので、まさしく「いなげの浜」です。
熊谷 今年は全国各地、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、屋内だけではなく屋外のイベントも中止になりました。私自身はどこかの段階で誰かが始めていないかという懸念もありました。けれど、海辺のインベストメントは、ビーチリゾートに適しているという判断で開催を決めました。並々ならぬ思いがあったので開催に至ることができてうれしいです。来場された皆さんも元気になる機会になったと思います。リニューアルされたいなげの浜の今後の展開は？

都市型ビーチは千葉市の宝。大切にしていきたい(熊谷)
決まりました。並々ならぬ思いがあったので開催に至ることができてうれしいです。来場された皆さんも元気になる機会になったと思います。リニューアルされたいなげの浜の今後の展開は？
熊谷 千葉市にあるいなげの浜、検見川の浜、幕張の浜は日本でも一番長い人工海浜です。もともと千葉市は海辺に長い歴史があり賑わってきた街。その賑わいを引き継ぎ、リニューアル後もいろいろな方々に楽しんでもらいたいという思いがあります。今後は都市型ビーチの価値、楽しみ方を定着させて、検見川の浜や幕張の浜まで広めていきたい。そういう意味では、今回のイベントは非常に重要な役割を担っています。
朝日 イベントのもう一つの目的として10年前から始まっているビーチスポーツの総合国際大会「アジアビーチゲームズ」を日本に招致し、それを「ワールドビーチゲームズ」まで飛躍させたいという狙いもあります。

国際大会を開催するのであれば、このビーチでは足りませんので、千葉県全体のビーチを使うという構想も提案している最中です。
今後千葉市がビーチスポーツの拠点になることを期待していますね。
熊谷 東京にこれだけ近い、100万ほどの人口を持っている都市に長いビーチがあるのは世界的に見ても稀です。我が国が海外都市に出張した時は必ず先方から「このビーチはなんだ？」と聞いてくるので、大切にしたいですね。大切にしてほしいです。
ビーチスポーツの醍醐味はどういうところでしょうか？
朝日 皆さんいろいろな感じ方をされると思いますが、やはり開放感があるところが、そうですね。そこに音楽もかかると、その中で真剣勝負が繰り広げられる。
熊谷 ビーチスポーツは単なるスポーツではなく、その背景には空や海という自然があり、人生を豊かにしてくれる文化のようだとイメージしています。このイベントを通じてブラジル発祥のフレスコボールを体験し

ました。協力してボールをつなぐ、思いやりのスポーツというところが非常に楽しかったです。ブラジルでは80歳の方でもやっていると聞いて、誰でも気軽にできるのが海辺のスポーツだと実感しました。
朝日 そうですね。あとビーチサン跳はしもおおすすめです。誰でも必ず簡単にできますから。ビーチスポーツはハードなスポーツからレクリエーション、最大の魅力ですね。
熊谷 多くの人の思いが届くことができた。もう一度開催したいのですが、開放感のあるいなげの浜で楽しんでもらいたいです。これからも千葉を盛り上げていきますよ。

砂ソムリエ

第12回

元プロビーチバレーボールプレイヤー！朝日健太郎が各地の砂を踏んで選ぶ「砂ソムリエ」は、足跡の数で評価する。足跡3つが最高。さて連載第12回で取り上げるのは、関西圏で有数の白砂、南紀白浜の白良浜の砂。

世界へ通じる扉が開く瞬間であった。関西圏では有数の白砂を有し、周辺環境にも恵まれた最良のビーチである南紀白浜の白良浜で2019年ビーチアルティメット競技の国際大会が盛大に開催された。国内外700名を超える選手からは、競技環境の質の高さと合わせて、砂のレベルの高さを多くの支持を頂いた。ソムリエの私が特に重視するグリッド(踏んだ瞬間の圧)が、ここは相対的にアシートのパフォーマンスを最大値まで発揮させてくれる。また、周囲を覆うオーディエンスたちも、このホワイトビーチから受けるパッションに感動が尽きず、競技とシンクロがたまらない。海外への扉を開き、ビーチの可能性を存分に示してくれた白良浜の砂で、もう一度熱くなりました。

日本・和歌山県

評価の観点
色: 白色度
粒: サイズの均一度
グリッド: 踏んだときの剛柔
感触: 踏んだときの気持ちよさ

総評価
〈はだし〉
2つ半!!